

■設立30周年の節目 三郷サミット開催

第30回三郷・安曇野友好都市交流推進協議会(三郷サミット)が5月26日と27日の2日間、本市で開催されました。同協議会は、昭和61年に同じ名前が縁で埼玉県三郷市と奈良県三郷町、旧三郷村との間で友好都市として提携したのを機に発足したもので、年1回協議会を開催しています。26日には、木津雅晟三

郷市長、森宏範三郷町長をはじめ3市町の協議会長、教育長、関係者なども出席し、昨年度の事業報告と本年度の事業計画や予算などを決めました。宮澤市長は「友好を深め、災害時などでは支え合い、連携するようになりたい」とあいさつしました。本年10月で、協議会設立30周年を迎えることから記念事業と

して、記念広報の発行や、各市町の図書館に友好都市図書コーナーの設置、信州安曇野ハーフマラソンに三郷市、三郷町の皆さんが出場する住民ふれあい事業を行います。協議会終了後、2市町の皆さんは、市内企業を視察しました。



記念事業の図書交換の様子

■北信越69市の市長が集う 北信越市長会総会開催

第168回北信越市長会総会が5月12日、13日の両日、市役所と安曇野スイス村サンモリッツ(豊科南穂高)を主会場に開催されました。当日は、新潟・富山・石川・福井・長野の北信越5県69市の市長、関係者が出席し、総会、分科会、市内視察などが行われました。同総会

は、大正2年に金沢市で第1回総会が開催され、昭和23年から今年2回各5県を持ち回りで行われ、安曇野市では初の開催となります。初日は、5県の市長から提出された25議案を分野ごとに分け「行財政・文教」「厚生・環境」「建設・農林」の3つの分科会で審議しました。2日目の13日には、分科会報告が行われ、地



総会で議長を務める宮澤市長(中央)

方行財政や教育環境、福祉施策の拡充強化、防災危機管理対策や都市基盤整備などの議案を採択しました。また、原子力発電所の安全対策や北陸新幹線の整備促進に関する決議案なども採択しました。採択した議案と決議は全国市長会を通じ国や関係機関に要望します。

■自治基本条例(仮称) 中間報告会を開催

市自治基本条例(仮称)中間報告会を5月23日から27日までの間、市役所など市内5会場で開催しました。

市自治基本条例(仮称)は、市の自治の原則や市民、議会および市の役割や責務、また三者の関係を明確にしたまちづくりの基本となる市の「最高規範」となる条例です。

報告会では、冒頭、助言者の

木村晴壽さん(松本大学総合経営学部教授)が条例制定の背景や必要性について説明。条例制定にあたり市民2000人を対象に行ったアンケート結果の報告と同条例制定市民会議で審議した「市民」や「議会」、「区」の役割など条例に盛り込む項目と内容について、市の担当職員が説明しました。

市では、今回の中間報告会で出された意見やこれまで市に寄せられた意見を取りまとめた上、条例制定市民会議で再度審議します。条例制定市民会議では、条例に盛り込む項目と内容を報告書にまとめ市長に提出します。提出を受けて市では、条例化について具体的に検討を進める予定です。



中間報告会の様子(5月23日・市役所)

■市民農園を活用した地域振興 JAあづみと覚書締結

市とJAあづみ(あづみ農業協同組合・千國茂組合長)は、市民農園の活用について覚書を交わし6月1日、締結式を同組合の大型農産物直売所「安曇野スイス村ハイジの里」(豊科南穂高)で行いました。

この覚書は、来年4月に直売所横に開園する15平方メートル80区画の市民農園と1区画225平方メートルの農業体験農場



握手する千國理事長(左)と宮澤市長

の活用を協力して行うものです。

覚書の主な内容は、市内外に向け利用者の募集や、同農園での農業講習会など広報や情報発信を協力して行います。締結により市民の農のある暮らしの充実や、安曇野インターに近い立地条件を生かし、観光客や友好都市などから訪れた人の利用が見込まれ、交流人口の創出と増

加による農業振興と地域活性化につながるものとして期待されます。

あいさつで千國組合長は「農業による地域活性化を図り、安曇野の価値を高めた」と述べ、宮澤市長は「農業や観光面で地域間交流の拠点となるよう期待したい」と話しました。